

兵庫保険医新聞

第1960号

2020年12月5日

発行所 兵庫県保険医協会
http://www.hhk.jp/

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078-393-1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133
(会員の購読料は会費に含まれています)

11・12中央要請行動 ストップ！負担増署名1万4千筆超を提出

高齢者窓口負担増で受診抑制に拍車

「高齢者医療の見直しを進めます」。菅首相が所信表明演説で述べたように、75歳以上の医療費窓口負担を現在の原則1割から2割へと引き上げる議論が政府内で本格化している。協会は11月12日、その撤回を中心に国会議員への要請行動を実施。すでに新型コロナウイルス禍による受診抑制で、高齢者の健康への悪影響が指摘されている中、さらなる医療費窓口負担引き上げは高齢者の命と健康を脅かすものだとして訴えた。

協会から川西敏雄副理事長が参加。桜井周衆議院議員(立憲民主党)、前原誠司衆議院議員(国民民主党)、武田良介参議院議員(日本共産党)が面会に応じた。協会は要請で、政府は高齢者の預貯金が現世代より多

得格差に際した再分配は保険料や税金で行うべきで社会保障の給付に差を持ち込むべき



桜井議員(右)は署名紹介議員引き受けを快諾

でないことを訴えることも、これまで集めた「医療・介護の負担増の中止を求める請願署名」1万4154筆の紹介議員となるよう求めた。

桜井議員は、川西副理事長の訴えに対し「高齢者には現役世代よりひどい所得格差があり、多くの人は窓口負担が2倍になれば受診をためらう」と述べ、署名の紹介議員になることを快諾。医療機関の減収については、「ボーナスが支給できないという医療機関もあると聞いた。早急に手当を行うことが必要だ。厚労省や財務省への働きかけを行っている」と応じた。

前原議員は、「新型コロナウイルス禍で日本の財政状況は悪化した。これに対し川西副理事長は「高齢者の貯蓄は、社会保障の厚労省や財務省への働きかけを行っている」と応じた。

患者負担増反対を訴える西山理事長



協会役員が負担増の内容を解説し、署名に応じる市民

元町大丸前で街頭宣伝

「負担増困る」署名ぞくぞく47筆

協会は11月14日、元町大丸前で街頭宣伝を実施。西山裕康理事長、武村義人・加藤擁一・川西敏雄各副理事長、水間美宏・鈴木明彦・白岩一心各理事が参加した。後期高齢者の医療費窓口負担増などの政府の患者負担増計画を紹介し、道行く人々に負担増反対の署名への協力を呼びかけ、30分間で47筆が集まった。

宣伝では、協会役員が「コロナ禍で国民が苦しんでいる中、75歳以上の窓口負担を原則2倍にすることは到底許されない。金銭的負担から患者さん自身もいっそう受診を控えるようになると健康上のリスクも高まる。協力いただいた署名は、国会議員に直接提出するので、ぜひお願いしたい」と順番に訴えた。



前原議員(中央)に署名を提出する川西副理事長(右)と森本主税保団連副会長(左)



武田議員(中央)に川西副理事長(右)と住江恵勇保団連会長(左)が署名を提出

医療機関の減収補填については「政府の施策は一般の医療機関には厚くない。患者数が例年の半分になった医療機関もある。厚労省は、医療機関の減収補填について「災害により診療録等を滅失し、診療行為の十分な把握が困難である場合に、概算請求が認められる。今回は診療録等の滅失はなく、診療行為は把握できている。そうした場合に、概算請求を認めた前例はない」と応じている。そもそも日本の低医療費政策の根本的な転換が必要だ」とし、「安倍政権を引き継ぐ菅政権を代えることの一歩の近道だ。真剣に政権交代をめざす」と強調した。同日、国会議員会館では歯科の厚生労働省交渉が行われ、新型コロナ禍に伴う受診抑制で疲弊する歯科医療機関に対して減収補填を行うことなどを要請した。

菅首相は、11月24日に開かれた全世代型社会保障検討会議で、75歳以上の窓口負担2割への引き上げについて「年末にとりまとめる最終報告で結論を得たい」と、年末までに結論を出し、年明けの通常国会で審議を行う意向を示しました。紹介状なしでの大病院受診時の定額負担の対象病院拡大についても、来年の国会で法案を提出するとしています。

「75歳以上の窓口負担2割への引き上げ」年内に結論の方針

署名は2万筆を突破！締め切りは1月15日

さらなるご協力を

菅首相は、11月24日に開かれた全世代型社会保障検討会議で、75歳以上の窓口負担2割への引き上げについて「年末にとりまとめる最終報告で結論を得たい」と、年末までに結論を出し、年明けの通常国会で審議を行う意向を示しました。紹介状なしでの大病院受診時の定額負担の対象病院拡大についても、来年の国会で法案を提出するとしています。

新型コロナウイルス禍で患者さんの受診抑制が大きな問題となっている今、これ以上の患者さんの窓口負担増は受診抑制に拍車をかけ、患者さんの命と健康を脅かします。

私たちは5万筆を目標に「医療・介護の負担増中止を求める」請願署名に取り組んでいます。現在寄せられた署名数は2万筆を超え、11月に国会へ提出しています。請願署名は私たちの要望を政治に反映させる、選挙以外の有効な手段の一つです。

これ以上患者さんの負担を増やさないため、「医療・介護の負担増中止を求める」署名にご協力をお願いします。締め切りは1月15日(金)です。

本件に関するお問い合わせは、☎078-393-1807まで



署名用紙

燭心

菅内閣が誕生して2カ月。安倍政権の踏襲を掲げた通りの強権ぶりを発揮している。自

菅内閣が誕生して2カ月。安倍政権の踏襲を掲げた通りの強権ぶりを発揮している。自衛隊の増強、公的年金や日本学術会議の任命問題など、早くも不誠実な態度を見せている。なかでもコロナ対応の迷走ぶりでは、大卒者の内定率低下や非正規労働者の解雇など、若い世代にも深刻な影響が出ている。▼にもかかわらず、先日の毎日新聞の世論調査では若い世代ほど内閣支持率が高いという結果が報道された。70歳以上の40%台に対して30歳未満では実に80%が支持と回答している。若者に政治参加を呼び掛けている能條桃子さんによると、背景には現状維持志向、NOと言えない世代という日本の若者特有の特徴があるという。NOと言うには理由が必要なので、基本的にはYESから始まり、どうしても許せなくなると初めてNOを選択するのだそう。振り返れば第一次安倍内閣で、教育基本法を改悪して国家統制強化の方向性を打ち出し、道徳を教科化し秩序や規律を重視する姿勢を叩き込み、NOと言えない人間づくりに動んでいた。▼相手手をその気にさせる方法のひとつに「スモールYES・ビッグYES」という手法がある。小さなYESを積み重ねることで、最終的にNOと言えない雰囲気をつくるという。道徳心、公共の精神、伝統文化、国土・郷土愛などはそれぞれには反論し難い言葉で、消極的ではあるがYESを強いる力を持つ。▼こんな若者の目を覚ます方法はただ一つ。将来に希望が持てる政策を掲げることである。(九)

10月25日に核兵器禁止条約の批准国が50カ国を超え、同条約の発効が現実になったことを受けて、協会は11月14日の第1122回理事会にて、条約の発効確定を歓迎する声明を採択し、関係機関に送付した。以下に声明の全文を掲載する。

2020年11月14日

声 明

核兵器禁止条約の批准国が50カ国を超えたことを歓迎する

兵庫県保険医協会
第1122回理事会

10月25日、核兵器禁止条約を批准した国が50カ国を超えた。90日後の1月22日には、この条約が国際条約として発効する。被爆から75年を迎えた年に、核兵器禁止条約の発効が確定したことを歓迎し、核兵器の廃絶を願う被爆者や市民団体などの多くの仲間たちと共に喜びたい。

ヒロシマ、ナガサキに原爆が投下され、その年の12月までに21万を超える命が奪われ、生き残った被爆者に今なお続く多大な苦しみを強いてきた核兵器を、この地球から廃絶することは、被爆者はもちろん全人類の願いである。しかしながら、今なお1万3千を超える核兵器が存在し、核兵器国はNPTで認められた5カ国に加え、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮と増えており、核戦争による人類の滅亡の危険はかつてなく高まっている。

その一方で、被爆者を中心として、核兵器の非人道性を世界に訴える運動が広がり、核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用および威嚇を禁止するという核兵器禁止条約が、2017年7月7日に国連で採択されたことは、われわれに大きな希望をもたらした。この条約成立への貢献が評価されて同年のノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」に加盟して運動を進めている「核戦争に反対する医師の会」に兵庫県保険医協会として協力してきたことを光栄に思う。

核兵器禁止条約が発効しても、核兵器がなくなるわけではない。今後、圧倒的多数の国連加盟国がこの条約を批准して、核兵器に悪の烙印を押すことが重要である。さらに核兵器国ならびに核の傘の下にある国々に対し、核兵器による安全保障ではなく、信頼と友好による安全保障を求めていかなければならない。

その中で、戦争による唯一の核兵器被爆国でありながら、わが日本政府が「核兵器廃絶は究極の目的」として、核兵器禁止条約に背を向けていることは許されぬ。われわれは、日本政府に対し、「生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」という被爆者の願いに寄り添い、核兵器禁止条約を批准し、核兵器廃絶の先頭に立つことを強く求める。

理事会
スポット

- ◇出席 22人
- ◇情勢 厚労省健康局結核感染症課は「インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保事業」の案内をウェブに掲載。補助金は「受け入れることが想定される発熱患者等の患者数から、実際に診療室で受診した発熱患者等の受診患者数を差し引いた人数に、一人あたり1万3447円を乗じた額を、体制確保の経費として算定し補助」する他、「受診者数の見込みに基づき金額を計算の上、申請していただき、概算払いを行う」、「実際の発熱患者数が0人の月については(補助金額に)1/2を乗せ(10/24日 理事会より)る」としている。
- ◇秋の組織強化月間 組織現勢は増勢を続け7626人となったこと、新規開業医研究会を開催(1/31)することが報告された。
- ◇日常診療経験交流会 第29回日常診療経験交流会(11/1・神戸市産業振興センター)は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みZoomを中心とし、新型コロナウイルス感染症関連の展示を企画中であること、等が報告された。
- ◇環境・公害対策部 ①「空気汚染(二酸化窒素)測定調査」を兵庫県下で10月22日、23日に実施したこと、②下山手住宅4号棟取り壊し工事に関するアスベスト問題について、神戸市から協会環境・公害対策部に対し、調査の不備について直接謝罪があったこと、等が報告された。

投 稿
会 員

「感染予防のカギ」ミニリーフレットを活用しよう!!

赤穂郡・歯科 白岩 一心

兵庫協会歯科部会が発行した「感染予防のカギ」のミニリーフレットが、とても役立つ。患者さんや地域住民の方々、医療関係者、介護関係者から、とても好評です。

歯科部会事務局には、会員 施設で紹介したところ、四つある全ての施設での活用することになったとのことでした。全国的にも大阪歯科・京都歯科・栃木・茨城・三重・宮崎・静岡



協会が発行した歯科ミニリーフレット

協会・北海道医会からも注文が寄せられ、合計16万部

を普及しています。なぜこんなにミニリーフレットが喜ばれるのでしょうか? 新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、歯科医療機関は院内感染防止対策を徹底し、全国でも歯科医療を通じての感染者の発表がないことがクロースアップされています。それに加えて、全身疾患の予防とともに、歯科医療、専門的口腔ケア、専門的口腔管理が、病症の重症化を防御していることが明白なことも大きな世論のうねりとして、波及し行き渡っていることも要因でないかと思われまふ。

「不要不急」の歯科治療の延期を求めた厚労省事務連絡が発出されても、糖尿病の患者さん、透析を受けている患者さん、臓器移植を受けた患者さん、抗がん剤治療を受けている患者さん、多剤薬剤服用中の患者さんだけは、必ず通院していただきましょう。患者さん自らが、口腔ケアの重要性を知っておられたからこそ、受診を継続していただきたと思えます。

いまだに、風評被害による大きな受診抑制が続く、持続的な歯科医療経営の心配も絶えませんが、ミニリーフレットの反響の大きさを日常診療で感じています。今が踏ん張り時だと日々、自らに言い聞かせ、自信を持って歯科医療の重要性を訴えている毎日です。

歯科医院譲渡



- ◇所在地 神戸市兵庫区小松通3-3-2ハイムタワーウチ1階
- ◇5階建て1階部分40坪
- お問い合わせは、☎078-506060または080-3783-3260
- 池田まで

● 医院経営研究会

12月例会

決算処理のポイント ~確定申告に向けて~

日時 12月12日(土) 14時30分~17時 会場 協会6階会議室
講師 協会税務講師団 田中雄司 税理士
参加費 3000円(医院経営研究会会員は無料)

お申し込み・お問い合わせは、☎078-393-1805まで

* 共済部だより *

『会費・保険料等入金済のお知らせ』

ご入用の先生は協会へお知らせください

協会では、『会費・保険料等入金済のお知らせ』(下のカコミ参照)を、ご希望の先生にお送りしています。発送は1月下旬頃の予定です。ご入用の先生は、共済部(☎078-393-1805/FAX078-393-1802)までご一報ください。

※これまでお送りしている先生には、引き続き送付させていただきますので、ご連絡は不要です。

会費・保険料等入金済のお知らせ

2020年01月~2020年12月までに、下表の入金いただきましたのでお知らせいたします。

※下表は一旦収納した金額を表示しており、収納後に解約等により返金した金額も含んでおりますのでご了承ください。また、「金額/種別」は、それぞれ振替金額、振替種別を表しています。また、同一枠内の上段は当月振替、下段は前月までの未収分の振替等を表しています。※下表と右記の取扱金融機関は作成日時時点のご指定金融機関となっております。※「控除証明書」は毎年11月頃に保険会社から送付されます。

	2020/01	2020/02	2020/03	2020/04	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	2020/11	2020/12	計
会費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	36,000
年金	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	240,000
年金	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	120,000
休業保障	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	108,000
フル保険	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	13,500	162,000
合計	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	55,500	666,000

見 本

新春政策研究会

ポストコロナ社会をどうつくるか
~『武器としての「資本論」』から考える~

日時 1月9日(土) 16時~17時30分 会場 協会5階会議室
講師 京都精華大学人文学部専任講師 白井 聡先生

白井聡先生(撮影者:梅谷秀司)



「Zoom」によりご自宅や医療機関等からご視聴いただけます。ご希望の方は、konishi-s@doc-net.or.jpまで、件名を「1/9政策研究会申込」として、①お名前、②医療機関名、③電話番号、④E-mailアドレスをご送信ください。事前にミーティングIDやパスワード、資料をメールでお送りします。

お問い合わせ、来場参加をご希望の方は、☎078-393-1807まで

村井嘉浩宮城県知事が11月11日、女川第2原発の再稼働に同意すると表明したことを受け、協会は11月14日、第1122回理事会で、同意の撤回を求める声明を採択し、関係機関に送付した。以下に声明の全文を掲載する。

2020年11月14日

声明

女川第2原発に対する宮城県知事の「地元同意」撤回を求める

兵庫県保険医協会 第1122回理事会

宮城県の村井嘉浩知事は11月11日、「原発には優れた電力の安定供給性があり、地域の経済の発展にも寄与する」として再稼働に同意すると表明した。東日本大震災での被災原発としても、事故を起こした福島第一原発と同じ沸騰水型(BWR)の原発としても、初の「地元同意」となる。

東京電力福島第一原発事故からまもなく10年となるが、いまだに事故は収束していない。事故原因は解明されておらず、同じ沸騰水型である女川原発は同様の事故発生危険性を内包している。さらに女川原発自身も、東日本大震災で外部電源5系統のうち4系統が一時喪失したり、原子炉建屋が浸水するなどしている。建設時の想定を大きく上回る揺れを経験し、圧力容器内の損傷を完全には否定しきれない状況にある。東北電力は、津波の想定を引き上げて高い防潮堤をつくるなどの対策を講じたとしているが、地震の時、再度実際に安全確保の機能が働くかどうか疑問視されている。

同原発は牡鹿半島の付け根にあり、女川町からの避難道路は一本しかなく、同半島の住民が事故時に安全に避難するのは困難である。屋外避難の対象となる30キロ圏内に一部地域が含まれる美里町長は、事故時の避難計画を「机上の空論」と強く非難し、再稼働に反対している。

地元・河北新報が3月に宮城県内の有権者を対象に実施した世論調査では、再稼働への反対意見は61.5%と半数を超えている。2018年には、宮城県保険医協会も協力し、再稼働の是非を問う住民投票条例制定を求める署名が11万超集まり、県議会に提出されているが否決された。今回の県知事の「地元同意」が県民の声を反映していないことは明らかである。

われわれは、いのちと健康をまもる医療従事者として、事故による放射能汚染の危険性を内包し、安定処分でできない危険な核廃棄物を出し続ける原子力発電所の新設、増設、再稼働を到底容認することはできない。原発ゼロを求める国民・地元住民の声を耳を傾け、村井・宮城県知事には再稼働への同意を即刻撤回することを、東北電力および政府には再稼働を断念し、今すぐ廃炉を決定することを強く求める。

協会などで構成する「保険でより良い歯科医療を」兵庫連絡会は、11月3日に協会会議室で市民学習会「健口と幸福寿命「コロナ時代」を生き抜く知恵」を開催した。大阪大学大学院歯学研究科教授で日本口腔衛生学会・新型コロナ対策検討本部副本部長の天野敦雄先生を講師に、歯科・歯科医療関係者と市民ら100人(来場43人/Zoom視聴57人)が参加した(11月15日付既報)。隠岐充啓先生の感想を紹介する。



健口長寿の大切さを学習

「保険でより良い歯科」市民学習会
感想文
健口維持で
免疫力アップを

協会などで構成する「保険でより良い歯科医療を」兵庫連絡会は、11月3日に協会会議室で市民学習会「健口と幸福寿命「コロナ時代」を生き抜く知恵」を開催した。大阪大学大学院歯学研究科教授で日本口腔衛生学会・新型コロナ対策検討本部副本部長の天野敦雄先生を講師に、歯科・歯科医療関係者と市民ら100人(来場43人/Zoom視聴57人)が参加した(11月15日付既報)。隠岐充啓先生の感想を紹介する。

「りんごをかじった時、血が出たら、歯ブラシの先で歯を傷つけたのかなと思っていましたが、実は違うのです。すでに出血していたものが、しみ出してきているのです。歯周ポケットの内側に炎症が起こって、潰瘍面が歯に接しているようになっていくと、そこに出血が起こって血が溜まっているのです。少しずつでも常時出血している、口の中でえらいことが起こり始めるのです。

口腔内細菌は、血の中の鉄イオンが増えると、ポパイがホウレン草を食べたみたいなので、爆発的に増え、悪玉菌の割合が増えるそうです。口腔内で増えた悪玉菌は腸に届き、腸の力(腸能力)を弱めるため、免疫力が落ちてしまうわけです。これを防ぐために「健口維持で免疫力を高め」ることが大切とのことでした。

私がお勤務しております薬局にて、最近関節リウマチの患者様が增加傾向にあったため、今回の研究会に参加いたしました。

です。免疫力の70%は腸で作られています。そして腸内細菌叢への最大影響因子は口腔内の菌の状態なのです。最後に、「天野先生の青い鳥の見つけ方」は、
【東灘区 隠岐 充啓】



61人が参加した関節リウマチの研究会

患者様からは、「注射(生物学的製剤)は一生続けないとダメなのでしょうか」との質問をよくお受けします。今は、個々の状態にもよりますが、活動性が改善した場合、中止できる場合もあつた、もし悪化した場合でも、再開すれば改善されることを説明し、安心して治療に専念

できるような話ししたいと思えます。先生のお話で特に印象に残ったことは、ムチランス変形の患者様を診ると、「なぜもっと早く治療を開始できなかったのか」と感じるとのお話でした。薬剤師として患者様の何気ないお話から、関節症状だけでなく、関節外症状などの聞き取りも十分

国会で議論の中心になっていく日本学術会議をめぐる人文系学者6名の任命拒否問題では、菅総理が野党からの鋭い質問に対して、連日支離滅裂、論点のすり替えを繰り返して、国民が納得できない答弁を続けている。だが真実は誰もが知っている。自民党の政策に反対し、

歴史に学ぼう (上)
明石市 永本 浩

安保法制等に逆らい「気に入らん」から任命拒否したことが本場の理由である。国民すべて(自民党議員も含め)が知っているのに、菅総理は知らんぷりである。本音を言わない菅総理と黒幕・杉田和博官房副長官は裸の王様である。逃げ道は杉田に詰め腹を切らせ、責任をとらせて強制辞職させることしかない。

3.5年)のUnited purgeを行った。次にマスコミ、出版社、放送局等に介入。特に朝日、毎日新聞は極めて好戦的で、日米の経済力の差、戦争の実態を正確に伝えず、大本営発表として御用学者、御用新聞と成り下がり、大戦争に突入し、国民は阿鼻叫喚の状況に陥った。安倍内閣を踏襲するとい菅内閣は間違った戦前の轍を再び踏むのか。

会員討報
寺延 治先生
兵庫区 歯・口腔外科
11月9日 享年76歳
ご冥福をお祈り
申し上げます

幼児から大学受験生まで
医学部受験 MEP
生徒が第一! 選べる指導形態
家庭教師 個別指導塾
上質な講師の授業 丁寧なフォロー
今月のワンポイントアドバイス
まずはお問い合わせください
https://www.mep-jp.com
06-4309-6515
FAX 06-4309-6520

コロナ禍での診療のあり方交流

第29回日常診療経験交流会 参加記

「世界が動き出した今」をメインテーマに11月1日、神戸市内で開催された第29回日常診療経験交流会の参加記を紹介する。

A分科会①

長年の診療から 得られた知見に敬服

広川内科クリニックの広川恵一先生は、2009年より11年間継続して高血圧症患者さんを診てこられた診療内容の検討を発表されました。診察情報提供書を作成することによってさまざまな患者様への気付きを分析されています。他者への文書の作成は自



Zoomを用いて分科会の様子を配信

わってきて、大変楽しく聞かせていただきました。97歳での胃腸増設や、漢方薬へのこだわりなど患者様を尊重し、診療に携わってこられたことが判りました。私は薬剤師ですのでもりファーマシーが気になるのですが、排便コントロールを重視し、薬の整理をされていることは、まさに長

A分科会②

コロナ診療の実践例 深く知れた

済生会兵庫東病院からは、「当院におけるCOVID-19感染症対策」として、薬剤師の浜野風砂さん、竹村敏也さんから発表があった。今年の3月4日からCOVID-19患者受け入れのために特別外来診察室を設置し、病院内でのトリージングを行った上で、入院患者を受け入れる態勢を整え、専門病棟として稼働させていることや、報道でしか知りえなかったPCR検査での陽性患者や検査結果待ち患者などを四つのゾーンに分けている実例を教えてくださいました。日常業務で感染症対策に深く関わる薬剤師として、院内感染を発生させないよう細心の注意を払いながらの仕事のストレスはいかばかりかと思に至った。竹村先生からは、アビガン投与患者の検査データを紹介していただき、まさに医療現場の最前線での薬剤師の仕事の認識できた。

【宝塚市・薬剤師 森本 愛】
先生が受け入れをされていた。指定感染症からの解除の議論については、経過を見て解除すべきが半数を占めたが、現状では仕方ないのではないだろうか。

【尼崎市・薬剤師 滝本 桂子】
長年の半田伸夫先生は、「新型コロナウイルス感染症診療に関する支店アンケート調査結果報告」を報告された。9月に支店にて新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査を行い、152件の回答を得たと報告された。一般開業医での発熱患者診療やPCR検査、抗原検査については、かかりつけ医に診てほしい患者の思いをくみ取って、半数の先

生が受け入れをされていた。指定感染症からの解除の議論については、経過を見て解除すべきが半数を占めたが、現状では仕方ないのではないだろうか。

展示会

工夫あふれる 展示に感心

今年の展示会は、コロナの影響で縮小されたものになりましたが、出された3点はいずれも出色のものでした。

【灘区 岡本 好司】
薬科部からは、故・結城繁夫先生の業績の集大成を展示されました。残された論文の量にも驚きました。先生は他人の話をしっかりと聴きとめ、ほめる点や矛



法西先生(右端)が石に含まれる鉱物などを解説

盾点を見つげる天才的な能力をお持ちでした。随筆を読まれても、文章の奥に隠れている読書を推測して感心されておられたことを思い出します。

その左には、森本愛先生のきれいな作品が展示されていました。イタリアンデコパージュと呼ばれる作品で、素材に色を塗り、紙に貼って作るそうです。猫がタンポポの中で遊んでいるテーブルマットは、器用に作られたきれいな作品で、タンポポを背景に置かれた知恵も賢いと思いました。三点みな好印象かつ、高度な展示でした。

B分科会①

オンライン参加多く 今後の活用に期待

B分科会前半の座長を務めました。この時期ですのでコ

【伊丹市・歯科 川村 雅之】
3演題目は、かわむら歯科 嚙リスクのある患者には有効であると思われました。スチーム患者者に対する水を使わない超音波スケラーの使用例が、オンラインを含めると例年比べて参加人数も多く、これからの可能性も感じました。

【伊丹市・歯科 川村 雅之】
2演題目は、はなクリニック・徐昌教先生の「コロナ2019が研究所から流出した遺伝子組換え生物であること」の遺伝学的証明」という衝撃的な内容でした。実際この演題発表中にスチーム参加人数が最高数を記録し、チャットによる質問もありました。ただ、生物兵器は情報が限られているので断定はできないということでした。

B分科会②

日常診療に役立つ 有意義な発表

B分科会後半の座長を担当しました。ご紹介がたがた、感想を述べさせていたくださ

まず、中央区の今村虎太郎先生の「予防歯科医療の必要性」は、予防歯科をメインにした診療を実践しておられる

【伊丹市・歯科 川村 雅之】
まず、中央区の今村虎太郎先生の「予防歯科医療の必要性」は、予防歯科をメインにした診療を実践しておられる

【伊丹市・歯科 川村 雅之】
まず、中央区の今村虎太郎先生の「予防歯科医療の必要性」は、予防歯科をメインにした診療を実践しておられる

審査対策部だより

2019(令和1)年度の指導および監査の実施状況(兵庫県)

協会は近畿厚生局兵庫事務所より「2019(令和1)年度保険医療機関等の指導及び監査の実施状況報告書」(兵庫県)の開示を受けた。主な特徴点は下記のとおり。

個別指導は医科、歯科とも高い割合で「再指導」に

個別指導の選定理由として「情報提供」によるものが、診療所(医科)27件のうち9件、歯科28件のうち6件であった。「再指導」によるものは、病院(医科)3件のうち3件、診療所10件、歯科17件となっている。

「高点数」によるものは、診療所8件、歯科4件で実施されている。いずれも約100件近くの医療機関が「高点数」で選定されているが、実施されたのは一部となっている。

【個別指導】

実施機関数	選定理由								
	情報提供		再指導		高点数		その他		
	選定	実施	選定	実施	選定	実施	選定	実施	
病院	3	0	0	3	3	11	0	0	0
医科診療所	27	9	9	13	10	147	8	0	0
歯科	28	6	6	19	17	94	4	1	1

実施機関数	指導後の措置				未措置のもの			返還	
	概ね妥当	経過観察	再指導	要監査	中断中	通知未発	件数	金額	
病院	3	0	2	1	0	0	1	108,924	
医科診療所	27	0	17	10	0	0	15	10,081,251	
歯科	28	0	18	9	0	1	19	6,646,099	

※返還は2019年度実施分のみ掲載

新規個別指導でも半数近くが「返還」 歯科では2割が「再指導」に

新規個別指導では、指導後の措置のうち「再指導」とされたものが、診療所115件(中断による未措置1件含む)のうち7件、歯科60件のうち2割に当たる12件とされ、新規個別指導でも「再指導」とされた医療機関がある。

返還については、診療所50件103

【新規個別指導】

実施機関数	指導後の措置				未措置のもの			返還	
	概ね妥当	経過観察	再指導	要監査	中断中	通知未発	機関数	金額	
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	
医科診療所	115	7	100	7	0	1	50	1,035,236	
歯科	60	1	47	12	0	0	27	297,838	

※返還は2019年度実施分のみ掲載

【監査】

実施機関数	監査後の措置						返還	
	取消		取消相当		戒告	注意	措置なし	金額
	機関数	保険医数	機関数	保険医数				
病院	0	0	0	0			0	0
医科診療所	0	1	1	0			0	0
歯科	1	1	1	1			0	0

※監査後の措置は前年度実施分も含む。返還は2019年度実施分のみ掲載

日常的な施設基準の確認が必要

施設基準調査は病院のみ94件で実施され、返還は4件7,514万3,638円となっている。返還件数はここところ減少傾向にあるが、今回も入院料関係で「専任の常勤医師が常時1名以上配置されていない」などの理由で多額の返還を求められているため、届出事項が合致しているか日常的な確認が必要である。

病院の施設基準調査は、通常3年

通知が届いたら協会へ相談を

協会では近畿厚生局および厚生労働省に個別指導や監査の改善を求めているが、医療機関においては日ごろからのカルテ記載、保険請求ルールの学習も不可欠である。

【施設基準調査】

実施機関数	返還	
	機関数	金額
病院	94	4 75,143,638
医科診療所	0	0
歯科	0	0

※返還は2019年度実施分のみ掲載

に一度のペースで適時調査が実施されることになるが、2020年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止されている。

個別指導等の実施通知が届いたらぜひ協会に相談していただきたい(医科 ☎078-393-1840、歯科 ☎078-393-1809)。

(4面からのつづき)
~~~~~  
ムを取り入れることにより、新しい可能性が開けると感じました。  
尼崎市の笠井裕美さん(管理栄養士)からは、「新型コロナウイルス感染症・感染拡大防止への取り組み」として、「自身の勤める野村医院での、この間の奮闘ぶりを紹介していただきました。発熱外来の取り組みや、ケア施設「ハウスのむら」での取り組みは、日頃からの地域医療を通じての信頼関係があったことでしょうか。地域医療を守るためにも、公的な休業補償や減収補填が必要という訴えには、まったく同感です。  
三田市の大槻繁人先生からは「初診患者における非菌原性歯痛症例の臨床的検討」という発表をいただきました。

私たち歯科医師が、日常診療で頭を悩ますことの多い、診断の困難な症例を集めていただき、有意義なお話に感謝します。やみくもに抜歯や抜髄に走るのではなく、的確な診断能力を身につける必要性を感じました。  
【須磨区・歯科 加藤 擁一】

## コロナをテーマに 多様な講演

今年の日常診療はコロナの影響で、例年と異なった形での開催となりました。感染拡大防止のため、開催時間も2時間に短縮し、分科会のみで開催でしたが、ウェブでの参加が可能となりました。  
私が座長を務めましたC分科会前半も、テーマはコロナ一色でした。  
一つ目は、神戸協同病院の

上田耕蔵先生による「算数疫学による新型コロナウイルスの動向予測」の講演でした。一週間の新規感染者数の平均値をもとに、実効再生産数を計算し、経済活動の自粛で感染が大きく抑制されることを解説されました。  
二つ目は、神戸協同病院の臨床検査技師・菅原直哉氏が、「新型コロナウイルス



会場がいっぱいとなったB分科会

液検査の経験」のテーマで話されました。病院で抗原定量検査を実施した経験から、偽陽性や、判定保留があったとの課題を語られました。  
三つ目は、ケイ歯科クリニックの佐藤圭先生が、「当院における新型コロナウイルス

に対する標準的取り組み」として、院内で実践している感染対策の取り組みと、感染防止に口腔ケアが重要であることを話されました。どのテーマも、時宜に合った、大変興味深い内容で勉強になりました。ご講演いただいた先生方に御礼申し上げます。  
この記事が掲載される頃にはますますコロナ禍が増悪しているかもしれませんが、明けぬ夜はないと言います。ともに困難なこの時を乗り越えていきましょう。

また、やはり直接会場に来て対面して交流する方がより良いのは言うまでもありません。次はいつも通りの日常診療に戻ることが願っています。  
【須磨区・歯科 坂口 智計】

会場がいっぱいとなったB分科会  
この記事が掲載される頃にはますますコロナ禍が増悪しているかもしれませんが、明けぬ夜はないと言います。ともに困難なこの時を乗り越えていきましょう。

### C分科会②

## コロナ対応の難しさ 改めて実感

C分科会の後半は、「精度80%の抗体検査」あなたが陽性なら? PCR検査を増やすべきとの議論の前提の2題連続で伊賀幹二先生の発表がありました。  
一つ目は感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率、検査前(事前) 確率、診断基準(疾患の定義)といった言葉の意味を問われ、天気予測を例にして解説されました。雨をもらたす雲の存在も、雨期と雨期でない時とで予測が変わること(検査前確率)、この検査前確率の高低が陽性的中率に影響することを感じました。

川柳

スガはアベ  
アベは秘書へと  
なすりつけ

改める  
私の辞書に  
ありません  
— 学術会議 & GOTOトラベル

詠み人 おさむ

【垂水区 宮武 博明】

三つ目は、「コロナ禍におけるかかりつけ医のあり方」を高田裕先生が発表されました。淡路島中央部の「たかたクリニック」で診療圏内約3500人の方々のかかりつけ医として17年間診療を担って、診療や検査を柔軟におられます。有熟者は車で待ちました。  
【垂水区 宮武 博明】

第29回  
日常診療  
経験交流会  
演題より

—保険診療のてびき・732—

# 新型コロナウイルス感染症診療に関するアンケート調査の結果(下)

西宮市・半田医院院長 半田 伸夫先生講演



兵庫県保険医協会

☎ 078-393-1801

Fax 078-393-1802

http://www.hhk.jp/

(前号からのつづき)

## アンケート結果

保健所との問題(問7)については、あると回答した施設は17(11%)と少なかったが、保健所はできる限りPCR検査を避けようとしている、すべてかかりつけ医に受診と返答する、など診療所と保健所の対応の感覚の違いが指摘された。

新型コロナへの貴院の対応についてクレームがあったか(問8)の設問では、あるとの回答は13件しかなかったが、過剰自粛で病状が悪化した例、発熱患者診察で時間がかかったため待ち時間のクレーム、院外(門外、廊下)で診察したことのクレーム、入院患者の面会再開の要望、感染者がバイキン扱われた、十分に接触者と思われる例が保健所ではPCR検査から漏れていた、など一定の不満があった。

新型コロナを指定感染症から解除すべきと考えられるかどうか(問9)については、図4に示したように、各科で意見が異なるものの、経過を見てから解除すべきとの考えが多かった。

直ちに解除すべきと回答した人からは、報道されるほど重症化しないから、風評被害がおこるから、保健所を介さない従来の診療ルートで診察するほうが連携しやすい、届け出や隔離は不要では、医療体制への負担軽減のため、など。

このままでよいでは、ワクチンや治療薬が開発されていない、感染が拡大する、クリニックでの対応は困難、医療費は公費のままで良い、重要な感染症だから、集団免疫ができるまではこのままでよい、2類のまま要件を緩和して対応、など。

経過を見て解除では、基本は風邪のウイルスであり、重症化も少ない、ワクチンが開発されればインフ

ルエンザ同様で良い、決して弱毒化していない、感染者の診断が困難だから、などであった。

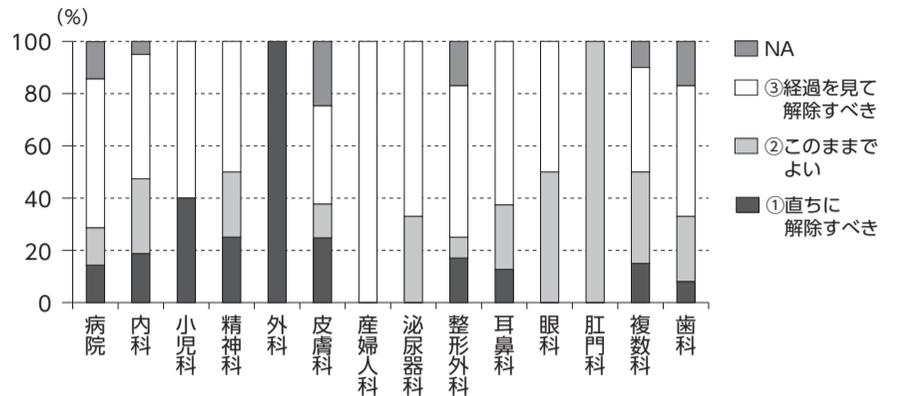
## 考察

重症肺炎を発症する新型コロナウイルス感染症COVID-19は世界中に広がり、2020年11月に入っても終焉する様子は見られない。この疾病の特徴は、高齢者や、肥満者、高血圧、糖尿病などの基礎疾患を有する人が感染した場合に、急速に成人呼吸窮迫症候群(ARDS)を起こして、死に至ることがあることと、症状発現前の無症候時にも感染力を有することである。このことから、防疫、公衆衛生面においても、また、医療、治療面においても極めて対応が難しい疾病である<sup>2)</sup>。

新興感染症で2類感染症であるため、全例報告や隔離を余儀なくされることから、公衆衛生面での保健所への負荷が極めて大きく、診断根拠となるPCR検査を十分に活用できなかった。このため政府としては、当初は病院での発熱外来の設置を進め、各医師会にPCRセンターの立ち上げなどを推奨してきている。その結果は西宮市のPCRセンター稼働などに表れている<sup>3)</sup>。

その後特効薬はないものの、疾病管理方法が整理され、当初高かった死亡率も少しずつ低下している。このため、政府や地方自治体は、一般診療所においても発熱外来を推進するための方策(補助金による奨励)を進め始めた<sup>4)</sup>。急性呼吸器疾患や有熱患者を診療する機会が多い、内科や小児科、耳鼻科では、対策ができるのであれば、PCR検体採取のできるいわゆる「発熱外来」で診療できれば、患者のニーズには応えやすい。一方で、疑い患者を異なる動線で診療できる体制を確保できるかどうかは、各診療所にとっては負担の

図4 指定感染症から解除すべきと考えられるかどうかについて(問9)



重い課題でもある。明確な指針がない中で、ともすれば医療機関のボランティア精神にゆだねることは、今後の感染症対策にも齟齬が生じかねない。

今回のアンケート調査は、比較的検査体制が確立しつつある西宮・芦屋支部におけるリアルタイムの新型コロナウイルス感染症対策や意見を求めたものである。その結果は、多くの診療所においては従来の対面診療を行うことは難しく、また薬局への配慮も必要であることが分かった。指定感染症についての考え方は、大きく意見が分かれ、治療法や予防法が確立するまでは現状のままに対応することが実質的であるとの意見が多かったが、指定感染症から外して、日常診療として取り組みたいという意見もみられた。もちろん、危険な感染症である限り、指定感染症として全例追跡の必要は残っている。

また感染蔓延初期においては、保健所と医療機関の間でのPCR検査の適応について、感覚の相違があり、医療機関側としては、適応拡大を訴え、保健所側としては、適応を絞る方向にあったことは否めない。検査能力が拡大することで、それらは解消されつつあるが、保険適応となった現状では、いずれ多くの適応外検査となり返戻が増えることは予測される。

われわれ一般医家は、未知の新しいこの疾患に関して、定期的に勉強会を開催し、専門家からの意見を聞いて、今後の診療の一助とするしかない。そのために、兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部としては、新型コロナウイルス感染症の勉強会を定期的に開催しており、今後も継続しようと考えている。

## まとめ

1. 新型コロナウイルス感染症に対する対応の現況をアンケート調査した。
2. 歯科を含めて多くの医療機関から回答を得た。
3. 現状では半数の医療機関が、診察室での対面診療は行えないのが実情であった。
4. また、診療後の院外処方では、半数の医療機関で発熱患者であることの情報を調剤薬局に通知していなかった。
5. 現状では改善しているものの、保健所と医療機関でのPCR検査適応の温度差が存在した。
6. 指定感染症解除については、治療法が確立するか、否か、が分かれ道になる

(11月1日、第29回日常診療経験交流会より、終わり)

## 参考文献

- 2) 診療の手引き検討委員会編：新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き第3版2020
- 3) PCR検査センター設置のお知らせ：西宮市政ニュース WEB版2020年8月10日第1578号
- 4) 令和2年度インフルエンザ流行期における発熱外来診療体制確保支援補助金(インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保事業及びインフルエンザ流行期に備えた発熱患者の電話相談体制整備事業)に関するQ&A(第1版)について：事務連絡、令和2年9月29日 <https://www.mhlw.go.jp/content/000678960.pdf>

## 青色(白色)確定申告研究会

日時 2月7日(日) 13時~16時  
会場 協会6階会議室  
講師 田口智弘税理士(協会税務講師団)  
参加費 1000円(『保険医の経営と税務2021年版』資料代)  
※医院経営研究会会員は無料

## 税経個別相談会

日時 1月23日(土)・24日(日)  
2月6日(土)・7日(日)  
14日(日)・21日(日)  
会場 協会会議室  
※各日程の13時~16時でご都合のよい時間帯(1時間)をお選びください。  
1回・1時間5000円(医院経営研究会会員は年2回まで無料)  
事前予約制(各相談日の3日前まで)

お申し込み・お問い合わせは、☎078-393-1805まで